

図画工作科学習指導案

日時 令和元年 6月26日(水)
生徒 4年生 男子 名 女子 名 計 名
授業場
授業者

1. 題材名「まぼろしの花」

2. 題材の目標

「まぼろしの花」とその世界について想像を広げ、表したいイメージをもちながら、色や形を工夫して表すことができるようにする。

3. 題材観・児童観・指導観

図画工作科において、表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう目標及び内容を改善・充実すること」が求められている。また、学習指導要領改訂の特徴として、「汎用的な資質・能力」の育成が挙げられることから、図画工作科特有の資質・能力が、教科を超え将来にわたって活用できる力、社会や実生活において生かすことのできる力として育成されることが求められているといえる。

本題材では特に「思考力・判断力・表現力等」に焦点を当て、表現及び鑑賞の活動を相互に関連させながら、表したいイメージ、表し方などについて考え発想や構想を広げ、自分の見方や感じ方を広げることにより主眼を置きたい。前題材で学んだ「材料を工夫して使うこと」「材料から発想を広げること」等を生かしながら、だれも見たことのない想像上の「まぼろしの花」をテーマとして、想像することを楽しみながらより豊かに発想を広げ、表したいイメージに作品を近づけていく。主題生成から表現の追究、課題解決等の一連の「学びのプロセス（過程）」を大切にしていきたい。

4 学年児童はこれまで、主題生成や創造活動、鑑賞の場面において対話的な学びによって発想を広げ、他者との関わりの中で自分の見方や感じ方を広げる経験をしてきた。しかし、本題材のように一定の条件（主題や表現形式、材料等の造形的な条件）の中で自己の表したいイメージを見だし、表現を追求していく経験は多いとは言えない。

本題材を通し、主題生成の場（表したいイメージを見出す場）において、「学び合い」からより自己の見方・感じ方を広げること、そして制作過程の中で、表し方を取捨選択し、自己の選択に納得しながら、表したいイメージに作品を近づけていくことは、「創造的思考」（テーマや限られた条件等から新しいものを生み出し、解決を図ろうとする力）、「問題意識・課題発見能力」（様々な視点を持ちながら問題や課題を見出す力）等の汎用的資質・能力にもつながるものと考えられる。

4. 「学級・学年経営年間プログラム」とのかかわり

4 学年の学級・学年経営年間プログラムの目的のひとつに「仲間と共に活動する中で、自他の違いを感じながら自分なりのよさを発揮する活動を核として、集団の中での自己の持ち味や役割を自覚し、責任を持って最後までやりとおす学級・学級集団を創り上げていく」ことが設定されている。

本題材を通して、鑑賞活動や他者との交流、対話から、造形的な視野や見方、感じ方を広げようとしたり、相手意識や目的意識をもってより良い方法で伝えたり表現したりしていこうとする態度を育むことが、学級・学年経営年間プログラムの目指す子供の姿に通ずるものと考えられる。

5. 題材を通して育むリーダーシップ・フォロアワーシップに関わる資質・能力

本題材は、自己の主題や表現を追究するための課題を見だし、解決のために思考・判断・表現等をしていく場面において「LF-ship」に関わる資質能力の育成を目指す。表現と鑑賞、発想や構想と創造的な技能が相互に関連する学習の構造をねらい、またそのような構造の中で、子供たちが「学び合い」を通して、互いに影響し合い、課題の解決に必要な情報や手段を判断、選択できるような手立てを講じていきたい。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 表したいイメージに合わせて、材料や用具の使い方を工夫している。	ア 「まぼろしの花」について、花の特徴やその花が咲く世界等について想像を広げている。 イ 考えたことをもとに、色や形の組合せ等、表し方を考えている。	ア 「まぼろしの花」を想像して、絵に表すことを楽しもうとしている。 イ 自分や友達作品を見て、互いの作品のよさや面白さを味わっている。

7. 題材計画

時数	○主な学習活動	評価の観点			学び合いの過程 手立て
		知	思	主	
1 (本時)	○だれも見つけない「まぼろしの花」について想像を広げる。 ○表したいイメージをもとに「まぼろしの花」の種や球根をつくる。 ○表したいイメージをもとに、次時の活動を考える。		ア		手立てⅡ ・児童が「学び合い」によって互いの見方や感じ方が広がることを実感するとともに、そこで得られた情報や手段が「自己の表したいイメージに必要なものか」「自己の課題解決に必要なものか」を考えることで、判断、選択できるようにする。 手立てⅠ ・「つくる」「みる」の往來する場面を意図的に組み込むことで、自己の考えや活動を問い直し、造形的な視点で対象や事象を捉え、課題を見いだしたり、見極めたりできるようにする。
2 ↳ 4	○表したいイメージに合わせて形や色を考える。 ○材料や用具の使い方を工夫して表す。	ア	イ	ア	
5	○「まぼろしの花の解説書」(作品のキャプション)づくりを通して、学びを振り返る。 ○自分や友達作品を相互の鑑賞しながらそれぞれの作品の表し方のよさやおもしろさを感じ取る。			イ	

8. 本時案

(1) 本時の目標

主題生成の場面において、他者との関わりの中で見方や感じ方を広げながら、自分の表したいイメージを見いだしていく。また、表したいイメージをもとに種や球根をつくり、次時の活動を考える。

<p>学習活動 児童・生徒の姿 ○教師の働きかけ・発問 (△補助発問, □指示・説明) 手立て</p>	<p>【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点</p>
<p>1 前の学習(題材)を振り返り, 本題材では、『新種発見! 「まぼろしの花」大図鑑をつくろう』をテーマに, 様々な材料を使って絵で表すことを提示し, 「まぼろしの花」について想像を広げる。</p> <p>○発見された新種の「まぼろしの花」, どんな花だと面白いかな。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>・「どんな花でもいいの?」 ・「だれも見たことのない花でしょ!」 ・「すごく大きいとか?」 ・「普段咲かない場所に咲くとか!」</p></div> <p>○先生も「まぼろしの花」考えてみたんだけど…普通の花に見えるんだよね。これじゃあ, 新種発見って感じじゃないなあ。</p> <p>○しかも, 図鑑にする時, どんなこと考える必要があるかな。 △どうしたら, だれも見たことのない面白い「まぼろしの花」になるかなあ △何か足りないなあ</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>・「普通の花に見えるね」 ・「花を増やしたら?」 ・「何か足りないね」 ・「思いつかないなあ」</p></div> <p>2 個人で「まぼろしの花」について想像を広げる(近くの友達と交流も可)</p> <p>□アイディアメモ用紙をつかって, 新種発見の図鑑に載せる「まぼろしの花」を考えてみよう。材料を見たり触ったりして考えても良いね。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>・「こうだったら面白いな」 ・「これは読む人に伝えたいな」 ・「すごいこと思いついたぞ」 ・「他の人の考え知りたいな」・「うーん…思いつかない」</p></div> <p>3 考えたことを交流し, 視点を広げる II</p> <p>○<u>みんなどんなことを考えた?</u> (黒板に視点から見いだされたイメージを記述していく。児童は聞きながら良いねと思った内容を「メモ欄①いいね! 付け足したい! メモ」に記述していく)</p> <p>△人に伝える時, どんな情報が必要かな (必要があれば視点の整理を行う)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>(どんなことを考えた?)・「こんなことを考えたよ」 ・「そんな考え方あるのか」 ・「なるほど!」 ・「考えを交流するの面白いね」 (視点の整理)・大きさ ・寿命 ・形 ・色 ・生える場所, 世界 ・特性 ・季節 ・秘密 など</p></div> <p>○<u>(もらったアイディアやアドバイス加えることで自分の表したいイメージがずれてしまう例を出して)載せる情報は, 伝えたいことや自分の花のイメージによって選ぶべきだね II</u></p> <p>○自分の「まぼろしの花」もっと考えたいこと, 付け足したいこと増えましたか? △<u>友達の考えたメモを見せてもらってもいいアイディアがもらえそうだね</u></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>・「自分の考えに付け足したい!」 ・「早く作りたい!」 ・「これで大丈夫そう」 ・「この花の～を伝えるには, この情報が必要そうだな」・「友達の考えたメモが見たい」</p></div> <p>4 「まぼろしの花」の種や球根をつくる</p> <p>○花は種や球根から生えてくるよね。みんなが考えた「まぼろしの花」の種や球根を色々な材料を使ってつくろう。先生の花だったら…(使う材料によってイメージが変わることを例示する)*出来る児童からつくる。時間的にできない場合は次時があることを伝える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>・「どんな種がいいかな」 ・「この花だったら…こんなイメージの球根だな」 ・「あの材料がいいかも!」 (・「今は考えたいから次の時間種をつくろう」)</p></div> <p>5 次時の活動のイメージをもつ</p> <p>○次回から「まぼろしの花」をつくっていきますが, まず何したら良さそうかな? △何がしたいかな? □考えたことをアイディアメモ用紙に書き込もう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>・「次の時間はここから作りはじめたい」 ・「ここを先につくろう」 ・「この材料を使ってみよう」 ・「材料を考えよう」 ・「もうすこしこの部分を考えたいな」</p></div>	<p>・黒板に教師が考えた作例を提示。全体交流のなかで出てきた視点を追記していく。</p> <p>・メモは文字でも図でも良いが, 後から見直して活用できるものにする ・材料から発想が広がることもある。材料に触れることも促す。</p> <p>【思】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>◇まぼろしの花について, 花の特徴やその花が咲く世界等について想像を広げている。</p></div> <p>・他者からもらったアイディアやアドバイスは自分の表したいイメージに必要なか, 問題を解決する手段になりそうか考え, 自分で判断し選択することを促す。</p> <p>・種や球根については, ある程度自分の表したいイメージが出来てから作り始めるように促す。</p>